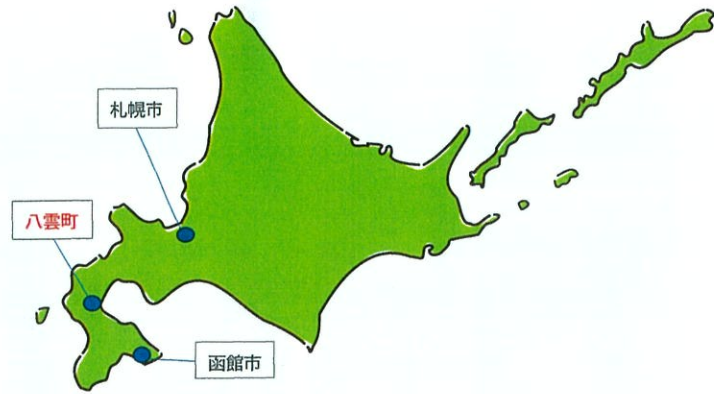


終わりになき図書館ジャーニー vol. 6

八雲町立図書館



八雲(やくも)町は北海道南西部、渡島半島のほぼ中央。函館から特急で1時間ほど北上したところにあります。2005年、「山越郡(やまこしぐん)八雲町」と「爾志郡熊石町(にしぐんくまいしちょう)」が合併し「二海郡(ふたみぐん)八雲町」となり、太平洋と日本海に挟まれた日本で唯一の町となりました。人口は2024年3月現在約15,000人。

現在工事中の北海道新幹線で「新八雲駅」(仮)として計画されていて、現在のJR八雲駅から西に3キロほど山間部に駅舎が建設されるそうです。下車したらたくさんの牛が歓迎してくれるでしょう。

八雲町には図書館滞在時間を含み90分。JR八雲駅から徒歩10分ほど。

八雲町のコンテンツ、引き出しはとにかく多い！図書館を訪れて知ったことをザクっと！

徳川家と八雲町には深い関係があります。八雲駅前にあった自分の顔を入れて記念撮影するパネルに記載していたのがとてもわかりやすいので引用します。

「旧尾張藩主徳川慶勝(よしかつ)公は、明治11年に遊楽部の土地に72名を移住させたことから開墾が進められ、移住者は増え、明治14年に『八雲村』と名付けられ、八雲町の始まりとなりました。」

さらに、「尾張徳川家第19代徳川義親(よしちか)公がスイスで購入した木彫り熊を、大正12年に八雲村『徳川農場』に送り、農場で働く農民に冬の収入源として、木彫り熊の製作を勧めました。後に北海道で最初の木彫り熊が誕生して、道内各地に広がっていきました。」と書かれています。つまり「北海道木彫り熊発祥の地」ということです。我が家にもあります。

他にも徳川家は当時、八雲へたくさんの寄附や支援を行っています。徳川家の資料が郷土資料の棚にずらっと並んでいます。興味ある方は是非調べてみてください。

図書館には第3回芥川賞作家鶴田知也(つるたともや)の常設展示があります。鶴田の出身地は福岡県小倉市。1936年に発表した受賞作『コシャマイン記』は、アイヌの部族長コシャマインと和人との戦いを叙事詩的に表現した作品ですが、鶴田が約8か月八雲で生活した経験から生まれました。

棚を眺めていたら、ザ・タイガースのコーナーが！阪神タイガースではなく、沢田研二などが所属したグループサウンズ「ザ・タイガース」の方です。なぜ八雲に？？

花咲く娘たちは～♪

代表曲『花の首飾り』の作詞者はなんと八雲の女子学生だったのです。どうということ？

1968年、月刊誌『明星』の公募で、約13万作の中から選ばれたのが、菅原房子さんの作品でした。その詞をなかにし礼が補作し、すぎやまこういちが作曲したのがあの名曲です。

タイガースのメンバー(ドラム)瞳みのる(通称:ピー)著『花の首飾り物語』(2013年小学館発行)には、作詞した菅原氏と会えないものかと綴っています。会えたのでしょうか？

八雲町の防災無線から正午のチャイムにこの曲が流れます。しかし11時54分の列車に乗らないといけなくて、ギリギリで聴くことができず。このような時に限って定刻通り列車は来るもので・・・これは悔しい！

2024年5月訪問

加藤 重男